

LGBT/SOGIに関する先進的取組事例について

別紙資料4

		男女混合名簿について	制服について	その他の取組について
国	文部科学省	<p>教職員向け冊子で通知 『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について』 (2015年4月30日)</p>		
他府県	佐賀県教育委員会	県内の公立学校の導入 (2019年4月) 採用していない学校への説明や文書通知 高校入試の願書については性別欄を廃止	LGBT(性的少数者)に配慮した制服の導入の検討 (2018) ブレザーを男女共通にし、スラックスかスカートを選択する案を協議している。	県内公立学校への調査を実施(2018年) LGBT配慮の好事例集 養護教諭専門講座にて「性的マイノリティの理解と対応」講座の開催
	岩手県教育委員会	2022年度までに全公立小中高で導入予定。 小学校は2019年度、中学校2020年度に半数の学校、高校では2019年度に全校での実施を予定。	各学校での取組にまかせている。	文部科学省の指定研究を受け、人権教育指定校を決定し、その中でLGBTにかかわる取組をしてもらう予定。年度末に実践事例をリーフレットにまとめ、学校に周知、啓発を行っていく予定である。
	倉敷市教育委員会	男女共同参画の方針で7.8年前に導入。 ※小学校は全校で導入済み。中学校は、5、6校のみ導入。県教委が進路関係の書類を男女混合名簿でも可となっているので、今後さらに進めていく予定。	2019年女子中学生の選択制を導入。 ※学校長に決定権があるので、支援、援助していく方向性を出している。現在、26校中7校導入。上がブレザーの学校では比較的導入しやすいが、それ以外の学校では生徒が着たいと思わないため、中途半端なスラックス導入より、男女共用のブレザーにし、制服の全面改訂を検討している。 ※性別違和の対応というより、防寒、防犯、皮膚の露出など安心・安全の一環として導入した方がLGBT/SOGIの子がスラックスを選択しやすくなると考えている。冬季に導入している学校があり、そのときはスムーズに受け止められたと聞いている。	人権教育実践資料3の作成 『性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ 2018年3月 倉敷市教育委員会』 多目的トイレの設置 ※本人の意向を聞き、学校長の申請があった場合多目的トイレの設置を検討している。 岡山大学府ジェンダークリニックとの連携。 ※学校の悩みを相談できる窓口を設置し、個人情報を出さない範囲で相談できるようにしている。本人が受診したがない場合も多いので、学校から好評である。 ※性別違和の対応で大事にしていることは、文部科学省の通知が1人歩きしないようにしていることである。本人や保護者がどのように思っているかが大切であり、その思いに寄り添っていくようにしていくことが大切だと考えている。
	川越市教育委員会	市内小・中学校で導入(未調査のため導入率は、不確定)	選択制を検討している段階。	取り立ててありません。
他市	加西市教育委員会	市内各小・中学校での使用(2019年4月) 市教育委員会からの通知(2019年4月5日)	保護者の願いがあれば、選択できるようにしている。自由選択はしていない。	教職員向けの人権研修を実施している。(年2、3回)
	宝塚市教育委員会	各学校での取組にまかせている。	各学校での取組にまかせているが、市内の中学校で、ほぼ選択できるようになってきている。ただ、選択の仕方は、各学校で差が見られる。	授業の手引き書の作成 『「ありのままに自分らしく」互いに認め合える学校園所をめざして～性の多様性について考える～(宝塚市教育委員会 2018年2月作成)』2019年に全教職員に配布して活用。